

AIを使う段階から、 AIが働く段階へ。

9月に始まった全社の生成AI活用を土台に、基幹システムと社内に散らばるデータにつながる最初の一手を、今日にご相談させてください。

モノリス株式会社 齋 善晴

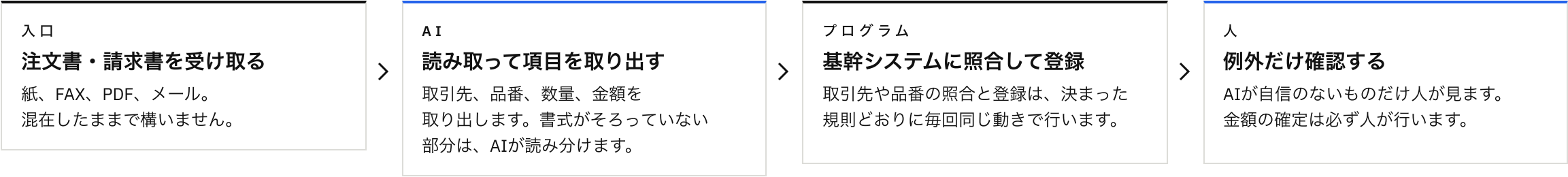
7月7日の打ち合わせとご提案書の続きとして



7月に伺った現在地を、9月の導入後の状態と照らし合わせたい

01 全社向け生成AIは導入済み、研修中 7月時点では「9月から全社展開」。 今日伺いたいこと どの業務で使われ、どこで使われていないか。	02 基幹システムとの連携は範囲外 導入したツールは、資料を読ませて答えをもら うまで。基幹システムのデータを使った処理は、 まだ手つかず。 今日伺いたいこと この認識は変わっていないか。	第1層 使うAI 社員が質問して答えをもらう使い方。9月から 全社で始まっています。
03 データが点在している 基幹システムはAWS上、他のシステムは 社内サーバー、ノウハウはExcelと社内ポータルに 散らばっている。 今日伺いたいこと データ基盤の構想は進んだか。	04 受発注は紙とデジタル混在の手入力 注文書・請求書を人が読んで基幹へ入力。 今日伺いたいこと 帳票の種類と、月の件数。	第2層 働くAI 決まった業務を人の代わりに進める使い方。 基幹システムやデータとつながります。今日 ご相談したいのはこの層です。
導入済みのツールはそのまま使い、その上に働くAIを足す形で進めます。		
7月のご提案の要点（おさらい） 働くAIは、導入済みのツールと競合しない 質問に答えるAIはそのまま。業務を進めるAIを基幹と データの側に置く。	最初の一手は、受発注の帳票 型がはっきりしていて件数が多い。効果を 測りやすい業務から。	小さく検証し、段階的に広げる 帳票1種類で試し、ルールを決めてから広げる。高嶋様との 共同プロジェクト方式。

最初は受発注の帳票から。AIが読み取り、プログラムが登録し、人は例外を確認する



— AIと人が関わる工程 — プログラムが毎回同じ動きをする工程

検証（PoC）の形	
対象	帳票1種類（注文書か請求書）。前向きな部署と
期間	4～6週間
データ	実際のデータ。匿名化するか、御社のAWS内で 処理するかを選べる
成果	読み取りの正確さと入力時間の報告書。基幹へ渡すデータ （CSVまたはAPI）の試作
体制	モノリス＝齋・道下／御社＝高嶋様。週1回の短い定例



小さく検証し、結果を見てから本番へ。その先に分析とナレッジ

検証 4～6週間	本番化 2～3か月	横展開と運用
帳票1種類を実データで測る 2026年11月	ルールを決め、基幹への登録まで自動化 2027年1月	他の帳票・他部署へ。基幹データの対話分析、社内ナレッジAIへ。月額で見守り改善 2027年4月～

費用の目安		データの扱い	検証の終わりに決めること
検証	50万円～ 本番に進む場合は、この費用を初期費用から差し引きます		
本番化	100万円～ 対象の帳票と連携の方法を見て見積もります		
運用	月5～15万円 動作の見守り、精度の改善、小さな修正を含みます		
検証で効果が確認できなければ、本番には進みません。			

検証の形を決めるために、4つだけ教えてください

- ☐ **導入から1か月の反応**
使われている業務、使われていない業務、現場の困りごと
- ☐ **帳票の種類と月の件数**
注文書・請求書・納品書。取引先の数と、紙とデジタルの割合
- ☐ **基幹の入力方法とAWSの環境**
画面で手入力か、CSV取り込みか、APIがあるか
- ☐ **検証の範囲と、成功と言える条件**
例：注文書1種類を4週間、読み取り精度と入力時間の目標

並走できること

AI導入支援（使い方の研修・社内ルール・定着）

入れたばかりの生成AIを、社員が使いこなすところまで支援します。研修と自動化を同じチームで進めると、計画がつながります。

本日のゴール

検証の対象と期間、データの扱い、次の打ち合わせの日程。この3つが決まれば、1週間でA4一枚の検証計画をお送りします。

この後の流れ

- 来週：技術の打ち合わせ（道下同席・1時間）。帳票サンプルと件数を拝見
- その1週間後：A4一枚の検証計画と効果の試算をお送りします
- ご判断後：検証開始（4～6週間）



使い方の研修も、同じチームで並走できます